

第9章 子育てサークル「ひまわり」

～地域からの助力のもとで広がる支援の輪～

はじめに

兵庫県神戸市須磨区友が丘には、ちょっと珍しい子育て支援活動をしているグループがある。「子育てサークルひまわり」(以下、「ひまわり」と略す)である。最近、増えてきている子育て支援は、子育て中の親子が気軽に来て、子どもを遊ばせながら、親同士がコミュニケーションできる「子育て中の親子のくつろぎの場」を提供するものである。「ひまわり」の珍しさは、この「くつろぎの場」で、喫茶(「ふれあい喫茶」¹⁾)を利用して、おいしいコーヒーや紅茶が飲め、ケーキが食べられるようにしていることである。もうひとつは、「ひまわり」が活動



手前：月2回開催される「ふれあい喫茶」室
奥：「子育て Hot 広場」が使用している和室

するにあたって、自治会などから強い協力を得ていることである。では、「ひまわり」はどのような経緯で、自治会の協力を得ながら、喫茶つきのくつろぎの場づくりを始めたのだろうか。この点を、グループのメンバーの話から探ってみることにしよう。

2006年8月31日に、北須磨団地自治会館にて、「ひまわり」のメンバー(鹿間さん、木村さん他3名)と北須磨団地自治会事務局長の保井さんからお話を伺った。以下では、そのインタビュー記録と頂いた「ひまわり」の活動資料等に拠りながら述べていくことにする。

1. 須磨区友が丘の特徴 - 住民自らの手で地域福祉を充実させる -

「ひまわり」の活動は地域と深いつながりがある。そこで、まずは「ひまわり」の活動地域の特徴について簡単に触れておきたい。須磨区友が丘は、大きなショッピングモールがある地下鉄の駅からは少し離れたところの、共同住宅と戸建てからなる閑静な住宅街である。ここは、1967(昭和42)年に兵庫県労働金庫の創設15周年の記念プロジェクトとして北須磨団地(兵庫県労働者住宅生活者協働組合)が建設されてできあがった街である。

この須磨区友が丘の特筆すべきことは、住民活動が盛んなことである。この街は、何もなかったところから新たにつくられたためか、北須磨団地ができた当初から、住民が積極的にまちづくりに関わってきたという歴史を持つ。これまでに、北須磨団地自治会を中心にして取り組まれてきた住民の活動には、生協ストアの充実、ゴミ対策、幼保一元化施設である保育センターや学童保育所の開設や運営への参加、緑を守る運動、自主運営による地域福祉センターの開設などがある。「ずっとここで、子どもが産まれて住んで老いていけるように、安心して暮らしていける」ように、団地住民は共同で生活に必要なものを獲得し、この地の福祉を築いてきたのである。なかでも、この街の福祉を支えるのに、自治会の活動が果たした役割は大きい。

現在この地域はかなり高齢化が進んでいる。須磨区友が丘の人口は6千人であるが、このうち、60歳以上が45.8%であり、14歳以下が8.2%である²⁾。都市部にしては若い世代が少ない地域である。子育てという点から地域を見ると、子育て中の親子が他の親子と出会う機会は児童館以外の場ではほとんどないという問題が起きている。

こうした特徴がある地域で、「ひまわり」の活動が行われている。

2. 支援の輪を広げた経緯

(1) 仲良しグループからの出発

「ひまわり」は2000年9月に結成された、子育て当事者のグループである。2000年8月に実施された須磨区子育て支援事業「北須磨保育センター子育て支援室」の親子遊びに参加した、1歳から2歳までの子どもとその親12組がつくったものである。発足のきっかけは、この週2回1ヶ月間行われた親子遊びの最終回に、子育て支援室の先生から12組の集まりに名前をつけ、グループ化するよう促されたことにある。ちょうどその頃には、1ヶ月間の集まりのなかでお互いに親しくなり、家や子どもの年齢が近いことから、参加した母親たちの間でも定期的に集まりたいという思いが生まれていた。それゆえ、「ひまわり」が結成されたのである。

この当時の活動は、メンバーだけでちょっとした季節行事のイベントをやったり、講師を呼んで話を聞いたりといったものであった。メンバーにとって当時の活動は、家の外に出るきっかけであり、息抜きの場であったという。外に出ても他の子育て中の親子に出会えない寂しさ、双子を抱えて一人では外に出られない苦しさ、外に出たがらない子どもを連れて外に出ることへのためらい、一日中子どもに振り回されるつらさ、社会から取り残されるような思いなど、それぞれのメンバーがそれぞれに自らの子育てに息苦しさを感じていた。そうしたなかで、サークルの活動はグループで子育てをすることによる安心感や気楽さをメンバーに与えたのである。このように、当初は、「ひまわり」の活動はメンバーが相互に支援し合うものであった。

(2) 支援の輪を広げる

メンバー自身の子育てに余裕がでてくる頃になると、月1回程度で行っていた上記のようなイベントの企画に、メンバーの友だちやその知り合いにも声をかけ始めるようになった。とはいえ、基本はメンバー内の相互支援であり、そこに他の親子数人ほどにも支援の輪を広げたものであった。それが、本格的に、子育て支援として、メンバー以外の親子を支援するように展開したのは、2003年の春頃のことである。

実はこのとき、「ひまわり」の活動は壁にぶつかりつつあったのである。子どもが幼稚園に入園し、小学校にあがろうとする頃になると、親の手から子どもが離れていくようになる。それにより、「ひまわり」では、他のメンバーと一緒に子育てをしていくという、これまでの活動の意義が薄れてきたのである。つまり、サークルとして活動を維持していく必要性が感じられなくなり、解散しようかという考えが出始めた時期であった。

ちょうどそのとき、自治会と婦人会が月2回「ふれあい喫茶」を実施している部屋の隣室を使わないかと、自治会から誘いを受けたのである。この誘いをきっかけに、「ひまわり」では、そもそもサークル活動を続けるのか、また、続けるとしたら、自治会からの提案を受けてメンバー以外の人たちに対する支援をやるのか、といった今後の活動に関する話し合いが行われた。対外的な活動を始めるにあたっては、メンバーが保育の専門的な教育を受けていないという不安があった。それでも、メンバーから「ひまわり」の活動を楽しみにしていたので続けてほしいという意見がだされた。また、自分たちが今まで助けてもらったことに対して、他の人にも広げ、

子育てHOT広場!

児童館のように子供を遊ばせながら、ゆっく〜いお茶が飲めたらいいのに...

ど、思ったことお聞きませんか?
そ、こ、で!!

友が丘地域福祉センターにおもちゃを預け!

ふれあい喫茶のおいしくて安いコーヒーとケーキで、ママもホッどー足つちませんか?

日時 毎月第3水曜日 10時~12時
場所 友が丘地域福祉センター2F
〒793-5188 友が丘5丁目24-00-2(友が丘公園裏) ☎ 793-5188

メニュー コーヒー・紅茶 100円 ケーキ 50円

主催 子育てサークル ひまわり
後援 北須磨団地自治会・婦人会

現在、育児家の中のマダムスタッフが参加しています!
是非一度、遊びに来てくださーい!! お持ちして参ります!!

ここぞ〜す!!

少しでも手助けしたいという思いもあった。そこで、自分たちの子育て経験を踏まえて、専門的知識がなくてもできることはないかと考え、出てきたアイデアが「子育て Hot 広場」の開催である。それは、メンバーが子どもたちを遊ばせつつ、母親たちに、「ふれあい喫茶」のコーヒーを飲みながら、おしゃべりし、くつろぐことができる場を提供するというものである。

こうして、「ひまわり」は本格的な子育て支援の活動に一步を踏み出すことになったのである。

(3) 活動概要

この月1回の「子育て Hot 広場」の開催が現在の「ひまわり」の活動のひとつである。この広場は、「子育て中の親子が少しでもホッとできる憩いの場」になることを目的としている。そのため、「子育て Hot 広場」では、喫茶を利用している間、母親がゆっくりとくつろげるよう、ボランティアである元保育士の協力を得て、おもちゃや絵本などで子どもたちを遊ばせている。また、スタッフは自らの子育て経験を踏まえながら、母親たちと共に育児に関する情報を交換したり、行政による子育て支援の情報を提供したりしている。ちなみに、この「子育て Hot 広場」は、兵庫県健康生活部少子局少子対策課の事業である「まちの子育てひろば」³⁾に登録されている。

もうひとつは、月に1回程度のイベント企画である。講師を招いた、ビーズづくりやクッキングといった母親を対象としたお楽しみ講座や子育てに関する講演会、小学校3年生までの子どもを対象とした「動く・こどもの館号」⁴⁾や「クリスマス会」などの企画を行っている。この子ども向けの企画は他の機関・団体からの協力を得て実施されている。

なお、現在、「ひまわり」のメンバーは6名である。基本的には、この6名で、「子育て Hot 広場」とイベントの企画・運営を行っている。イベントの際には、婦人会などがボランティアで協力している。また、活動に関わる費用は、主に助成金から得ている。イベントの参加費は、参加者のおやつや材料に還元されている。

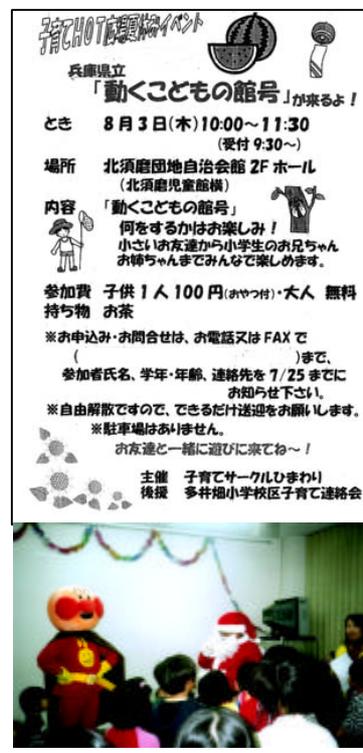
3. 地域の力を得ていくには？

自主サークルが自らの子育てを越えて支援の輪を広げるにあたって、地域とどのような関わり合いが必要になるのだろうか。「ひまわり」の活動事例から読み取っていこう。

(1) 自分たちの活動は「社会還元」

「ひまわり」では、当初、自分たち自身の子育てのためにサークル活動をしていた。それが、あるきっかけを通じて、地域（友が丘というコミュニティ）に交わり、メンバー以外の子育て当事者に対する支援活動を始めるに至っている。この展開を促したのは、「社会還元をする」という思いである。

鹿間さんは、「子育て Hot 広場」の開設を決めていく過程で、メンバーに「社会還元」という言葉を用いて、自分たちの活動を説明したという⁵⁾。メンバーは、サークル活動を通じて、自分たちの子育てが助けられ、救われたという思いを共有している。これからの活動は、その思いを他の母親たちにも伝えていくものになる。ちょっと上の先輩ママとして、子育ての悩み



写真：クリスマス会の様子

を分かち合える存在として、子育て中の母親が少しでも「楽になる手助けができれば」と思って、活動をしていこうとメンバーは決意をしていった。

このように、対外的な活動をはじめると同時に、自分たちのこれまでの活動を、「社会還元」という言葉を用いて、他の母親たちにとっても価値あるものとして捉え直していくことが行われたのである。そして、このことが、子育て中の母親であっても地域と関わることを、この街の人たちに示すことにつながったといえよう。

（２）頑張りに手をさしのべる～自治会・婦人会の力～

「ひまわり」の活動は、人の紹介、場所の提供、助成金などに関する情報提供といった助力を自治会や婦人会から得ることで成り立っている。

そもそも、「ひまわり」が仲間同士の相互扶助活動から、仲間以外の子育て中の親に向けた支援活動を始めるきっかけをつくったのが、自治会からの誘いかけである。それは、自治会・婦人会が開いている「ふれあい喫茶」の日に、その隣にある和室を使って、活動をしてみないかという提案である。また、「ふれあい喫茶」を利用した「子育て Hot 広場」の活動を始めるにあたっては、兵庫県の事業である「まちの子育てひろば」に登録することを勧めている。

そして、自治会からの誘いかけを契機に、活動の運営でも、「ひまわり」は婦人会の人たちからの助力を得るようになったのである。そのひとつが、元保育士やイベントの講師などの人の紹介である。こうした人たちは、友が丘団地に住む人たちである。つまり、「ひまわり」は婦人会を通じて、地域の人たちからの協力を得ていると言えよう。もうひとつは、イベント時の託児である。婦人会との関係ができる前は、託児を行うグループに頼んでいたそうである。今は、婦人会の人たちがイベントの際に、託児を行っている。さらに言えば、イベントを開催する会場費は婦人会の活動費から支出されている。

では、婦人会や自治会は、どのような理由から、「ひまわり」の活動を支えているのであろうか。自治会事務局長である保井さんの話によると、2つの背景があるようだ。

現在の婦人会の中心メンバーは、北須磨団地ができた当時には子育て世代であり、働きにでている母親が安心して子どもを預けることができるよう様々な運動をしてきた世代である。こうした背景を持つからこそ、若い世代の母親が苦労しながら子育てを行っていることに対して、できるだけ協力したいという思いにつながったという。

もうひとつは、須磨区友が丘の地域がほぼ二人に一人が高齢者であるという実態を踏まえ、今後この街を育て、背負っていくのは、「ひまわり」で活動しているような「若いお母さんたち」であるという思いからである。だからこそ、いろいろな問題を抱えながらも頑張っている「若いお母さんたち」の姿に対して、「我々が元気な間に」力を貸そうという動きになったのである。

「ひまわり」は子育て当事者のメンバーが自らの力で頑張っただけで活動し続けてきたものである。その頑張りに目をとめ、その活動に自らが抱える思いや願いを込めたのが自治会や婦人会であり、それが「ひまわり」の活動に支援の手をさしのべることに繋がったのである。

（３）連絡会づくり～行政施策の活用～

三つ目は、連絡会の存在である。「ひまわり」が「子育て Hot 広場」の活動を始めてからしばらくして、須磨区の健康福祉課子育て支援係は、子育てサークルの代表者による連絡会と、小学校区ごとの子育て連絡会づくりを推進するようになったという。そして、これらの連絡会は、「ひまわり」の活動にとって大きな支えになっている。

子育てサークル代表者による連絡会を、「ひまわり」では須磨区内の子育て支援サービスに関

する情報収集の場として活用している。須磨区には子育て支援に関わるグループが 20 ほどあり、この連絡会は、子育て支援係がそれらのサークルの代表者に呼びかけ、年に数回ほど開催される会合である。会合では、サークル同士の情報交換が行われる他に、行政による子育て支援サービスの情報が伝えられたり、子育てに関わる資料が配られたりしている。つまり、「ひまわり」のスタッフにとって、連絡会は須磨区内のどこで、どのような支援が行われているのかわかる機会となっている。そうであるからこそ、「ひまわり」は、そこで知り得た様々な情報を「子育て Hot 広場」に来る母親たちに伝えることができるようになっている。

また、小学校区の子育て連絡会は、「ひまわり」にとって、イベントへの協力を得る場として、また、地区の子育てに関して情報交換する場として、大きな助けになっている。小学校区の子育て連絡会には、小学校、幼稚園、保育園、子ども会、自治会、民生委員・主任児童委員などが関わっている。「ひまわり」はこの連絡会の際に、子どもの状況や問題を抱えている家庭の状況などの情報を得ると同時に、「子育て Hot 広場」を利用している親たちの状況について伝えている。また、連絡会が立ち上がったことで、大きなイベントを実施する際に当日の人員が得られたり、幼稚園や小学校を通じてチラシを配ることができたりといった協力が得られるようになったのである。木村さんによれば、それまでのイベントは、「ひまわり」のスタッフだけでこじんまりと行っていたそうである。それが、子育て連絡会が「バックアップしてくださった」ことにより、子どもと大人を合わせて 200 名もの人に参加するイベントになった。連絡会が立ち上がったことにより、それまでの「ひまわり」による単独の活動は、地域の役職に就いている人たちと知り合い、そうした人たちとの連携・協力による活動になってきている。

「ひまわり」の活動に見られるように、子育て当事者による自主サークルが単独で子育て支援活動をしていくには、人員や物的資源、情報といった点で限界がある。自主サークルの活動が地域に広がるには、その地域からの支援が不可欠になってくる。そういった意味で、上記のような様々な関係者が集うような連絡会は、自主サークルにとって、地域からの助力を得ていくためのきっかけとなる貴重な場であると考えられる。

おわりに

須磨区友が丘の子育て支援活動は、サークルの自主的な活動を主軸にしながら、そこに地域の力を集めてできあがった地域全体で取り組む子育て支援の体制として、参考になる事例と言えよう。ただし、「ひまわり」自体は、運営の難しさに直面しているようである。最後に、この点について簡単に触れておきたい。

そのひとつは、「ひまわり」の活動を担うメンバーの生活の変化に由来するものである。「ひまわり」は、一緒に子育てをしていた仲良しグループであり、現在もそのメンバーで活動している。そのため、子どもが小学校に通い、それぞれの生活スタイルが変わることにより、メンバーは、これまでと同様の力をサークル活動に注ぐことが困難になってきているのである。また、小学校区の子育て連絡会がメンバーの負担になっている面があることも否めない。もともと、「ひまわり」は小学校区とは関わりなく、メンバーが集まり活動をしてきている。それが、小学校区ごとで子育て支援を行うという行政の枠組みに、「ひまわり」が組み入れられることで、その活動は特定の学区に限られたものになる。したがって、自身の子育てや子どもの活動と「ひまわり」の活動とが切り離されてしまうメンバーがでてくるようになったのである。そうしたメンバーは「ひまわり」で活動していても、どこか所在のなさを感じるようになりつつある。

さらに、地域から期待されるようになったことで、支援を充実させていくことに対する責任の重さと、仲間同士のつながりや自分自身の時間を大切にしたいという思いの間でジレンマが生まれつつあるようである。

このように、「ひまわり」は、今後も、仲良しグループを維持しつつ運営していくかどうかの岐路に立ちつつあるように見受けられた。どのような選択をしていくのかは、「ひまわり」のメンバーやそれを支える人たちに委ねられる。願わくは、代表の鹿間さんが話していたように、子育て当事者が地域に関われる活動として、細々としたものであったとしても「子育て Hot 広場」が続いていくことを望みたい。

(渡辺恵)

<注>

- 1) 「ふれあい喫茶」は、北須磨団地自治会と婦人会が地域福祉センターの1室を利用し、月2回地域の交流場所として開いているお茶(コーヒー・紅茶)とケーキを出す喫茶室である。なお、お茶とケーキの給仕は婦人会が行っている。
- 2) 「須磨区友が丘の男女、世帯数、5歳刻みの統計資料」(2006年6月1日現在)から再集計したもの(北須磨団地自治会『平成18年度定期総会議案書』29頁2006年8月)。
- 3) 「まちの子育てひろば」とは、「県内各地で、親子が気軽に集い、仲間づくりを通して子育ての悩みを話し合ったり、お互いに情報交換等を行うひろば」のことである。県行政は、こうしたひろばの開設に対して支援をしている(兵庫県健康生活部少子局少子対策課 HP: <http://web.pref.hyogo.jp/hw09/st03.html>)。
- 4) 「動く・子どもの館号」とは、兵庫県立子どもの館による事業であり、体験活動指導員を「まちの子育てひろば」に派遣し、遊びや体験活動の実践指導を行い、地域で子育てができるように支援するものである(兵庫県立子どもの館 HP: <http://kodomonoyakata.jp/index.html>)。
- 5) 「社会還元」という言葉を用いた理由について、鹿間さんは、自分たちでも地域コミュニティに参加できているのだという「意識を持ってもらいたかったのと、自分たちがやっていることがすごい価値があることやで、ということスタッフにも理解してほしかった」ためと話している。

<参考資料>

- ・『北須磨団地自治会・婦人部25周年記念 ふれあい友が丘』
- ・北須磨団地自治会『平成18年度定期総会議案書』2006年8月
- ・「まちの子育てひろば」兵庫県健康生活部少子局少子対策課 HP(アクセス日:2007年2月5日)
: <http://web.pref.hyogo.jp/hw09/st03.html>
- ・「動く・子どもの館号」兵庫県立子どもの館 HP(アクセス日:2007年2月5日)
: <http://kodomonoyakata.jp/index.html>